

## 3-1 水中遺跡(湖底遺跡)

琵琶湖の水辺や湖底には、約70件の遺跡が発見されています。これらの水中遺跡(湖底遺跡)は、琵琶湖の水辺環境とともに歩んできた人々の独自の暮らしと文化を知ることができる貴重な文化遺産です。

### 1. 水中遺跡(湖底遺跡)とは

人々は琵琶湖の水と大地の恵みに恩恵を受ける形で、2万6千年前の後期旧石器時代から湖辺に住み着き、以来、各時代を通じて琵琶湖との関わりのなかで独自の文化と歴史を形づくってきました。人々の営みは、水辺や湖底にたくさんの水中遺跡(かつては湖底遺跡と呼ばれていましたが法的に整備され現在はこう呼ぶ)を遺すことになりました。湖中に積荷と共に沈んだ船や、水への祈りとして物を捧げた場所、地震による隆起・沈下、または水位の上昇により水没した陸などの遺跡があります。

### 2. 粟津湖底遺跡

大津市晴嵐一丁目付近の琵琶湖底で発見された約1万年前～約5千年前(縄文時代早期～中期)の淡水貝塚を中心とした遺跡です。貝塚は、当時の人々が食物の残りカスなどのゴミを捨てた場所と考えられ、発掘調査ではセタシジミを主体とする貝殻や魚骨・獣骨とともにクリやトチなどの木の実の皮などが大量に出土しました。陸上にある貝塚では分解されて残らない植物質の遺物がこの貝塚では、湖水によって守られて、良好な状態で残されていました。粟津貝塚の調査によって、狩猟中心の暮らしと考えられてきた縄文時代が、木の实などをより多く食料とする暮らしであったことが明らかになりました。



写真3-1-1 粟津湖底遺跡



写真3-1-2 粟津湖底遺跡から出土した土器

### 3. 針江湖底遺跡

高島市新旭町針江にあるこの遺跡では、弥生時代前期の集落や柳などの埋没林とともに、地震の液状化現象による噴砂の痕跡が水面下約2.7m付近で見つかりました。さらに、この遺跡は、現在の湖岸より沖合約200m付近まで広がることから、大規模な地震によって水中に没したと考えられます。



写真3-1-3 針江湖底遺跡調査風景

### 4. 塩津港遺跡

長浜市西浅井町塩津浜にある塩津港遺跡では、発掘調査によって、琵琶湖の水面より低い位置で平安時代の神社跡が発見されました。ここでは本殿などの社殿跡や鳥居の柱とともに、周囲を囲む堀の中から神像や起請文木簡などが見つかっています。出土した木簡や土器からみて、この神社は1185(元暦2)年に近江国を襲った地震によって琵琶湖の底に沈んだと推定されます。



写真3-1-4 塩津港遺跡遠景

文化財保護課 木戸 雅寿